

第148回国際研修

「薬物犯罪者処遇；新たな取組」

1. 日程及び参加者

- 平成23年5月11日（水）～6月17日（金）
- 海外参加者7か国10名（オブザーバー2名含む）
- 国内参加者8名

2. セミナー概要

薬物依存を有する犯罪者の処遇は、先進国、発展途上国の別を問わず、刑事司法において長年、課題とされてきた。当該犯罪者数の数が多い上に、伝統的な処遇のみでは再犯率も高い。

本研修では、「効果的な処遇技法」「効果的な刑事政策」の両面から、有効とされる最新の取組について学ぶとともに、経験及び知識の共有を図り、薬物犯罪者処遇につき適切な方策を検討した。

主要な具体的検討項目は以下のとおりであった。

- 薬物犯罪者処遇の現状（現状の統計的把握、現行制度及びその問題点、行動科学的観点から見た違法薬物使用の諸問題等）
- 処遇技法（再犯リスクアセスメント、処遇要領プランニング、臨床心理的各種技法、精神科的介入、処遇効果評価等）
- 刑事政策面での取組（ダイバージョン、薬物依存者処遇専門施設、ドラッグコート、官民連携、再犯防止措置のコスト・ベネフィット等）

3. 客員専門家等

本セミナーの一環として、アジ研教官による講義のほか、以下の客員専門家・外部講師による講義を行った（敬称略）。

【客員専門家】

- アン・ベルゲンストロム 国連薬物・犯罪事務所（東アジア太平洋地域事務所）
コーディネーター
「違法薬物使用・依存に係る現況、課題及び展望」
「国連薬物・犯罪事務所及び世界保健機構による薬物依存処遇の原則」

【外部講師】

- 沖 郁二郎 関東信越厚生局麻薬取締部調査総務課長
「日本における違法薬物使用の現況」
- 原田 隆之 目白大学人間学部心理カウンセリング学科准教授

- 「薬物問題を有する犯罪者の処遇について」
- 藤本 哲也 中央大学法学部名誉教授・常磐大学大学院被害者学研究科教授
「薬物依存を有する犯罪者の処遇について：刑事政策の立場から」
 - 近藤 恒夫 日本ダルク代表
「薬物依存対策のために私が取り組んできたこと」
 - 小西 暁和 早稲田大学法学部准教授
「薬物依存を有する犯罪者の処遇」
 - 阿部 俊三 財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター企画部長
「財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターの取組」
 - 松本 俊彦 国立精神神経医療研究センター精神保健研究所
薬物依存研究部診断治療開発室長
「薬物依存の理解と援助～精神科医療の立場から」
 - 小島まな美 法務省矯正局成人矯正課法務事務官
「矯正における薬物犯罪者処遇」
 - 南元 英夫 法務総合研究所教官
「更生保護における薬物犯罪者処遇」
 - 染田 恵 関東地方更生保護委員会首席審査官・法学博士
「薬物犯罪者処遇の処遇効果」

以 上



研修参加者の入所



国際会議場



法務大臣表敬



保護司国際研修における意見交換



